



貴介問答卷之二目錄

一 神道ノ大意ノイ氏聞ノキト云事

初丁メ

一 上古ノコノ神ノカミト云事ノイ人ノヒトト云事ノイ如何ノイカント云事ノイ神ノカミト

名ノナをノ云ノ事ノイ

三丁メ

一 神ノカミノ身ノミニノ一ノ則ノナラバ實ノマコト實ノマコトハ則ノナラバ道ノミチト云ハ如何ノイカント云事ノイ

四丁メ

一 天人ノカミ合ノ一ノ道ノミチノ復ノマタ

九丁メ

一 中實受用ノマコトノ事ノイ

十三丁

一 吾國ノカミ代ノ日本ノニッポント号ノナヅケハ如何ノイカント云事ノイ

十六丁

一 天照太神ノカミノ御出生ノミコナマヒ并ノナド乙上ノニギハヤヒ代ノ治ノミチト云事ノイ

十八丁

一 天照太神ノカミ。天上ノアマノト治ノミチト云事ノイ時中津國ノトキナカツクニハ何ノイカンノ神治ノカミ

カミ



貴介問答卷之二
やと云事并ハ雲神詠事
七丁

一 大己貴之神中津國氏經營ケイエイ事コト
北二丁

一 大己貴治事ヲホアキミチ如何ナニニして孫降臨ニシラノカウリン事コト
北四丁

貴介問答卷之二

○ 貴介公子服と改禮と正タシして来曰吾國之神シニ

道と草率サウソツよ語カタラと承ウケる古より法リなりと承ウケる

齋戒沐浴サイカイホクヨクして清淨キヨウジヨウナリ也吾神國ウレよ生ウレる神カミ

の道故と云謹ツツシて請カク神カミの道故語カタリと承ウケる

答曰神道カミチと深遠シニエン幽微ユウビかつ初ハジメよ語カタリと承ウケる

と云も執心シツシン深信シニシン強小ツヨクコと承ウケる其大概シテと承ウケる

らん謹ツツシ事コト聞キく事コト夫吾朝ソレ神道カミチは天地アメノチの

道也チ天地アメノチの道チと即ナ人道ヒトノチ也天人アメノヒト合一イツツクの道チは

神道カミチと名ナは字ジを承ウケる也吾國ウレと天地アメノチと共トモに

貴介問答

神明顯^{アラハ}摩^マと故^ユ。國^{クニ}以^{ヨリ}神^{カミ}國^{クニ}と云^{イハ}道^{ミチ}は神^{カミ}
道^{ミチ}也^{ナリ}。天地^{ツチノチ}と^カ形^{カタ}と^ク名^ナは^ル。陰陽^{インヤウ}は
氣^キ以^{ヨリ}名^ナは^ル也^{ナリ}。天地^{ツチノチ}と^カ陰陽^{インヤウ}の氣^キと^ク名^ナは^ル
方圓^{ハウエン}の形^{カタ}あり。乾坤^{ケンコン}の理^リは行^{ユク}もの也^{ナリ}。陰陽^{インヤウ}は
健^{ケン}順^{ジュン}の氣^キと^ク名^ナは^ル。剛柔^{コウジュウ}の質^{シツ}と^ク成^ナり^スもの也^{ナリ}。神^{カミ}は天地^{ツチノチ}
陰陽^{インヤウ}の氣^キと^ク名^ナは^ル。乾坤^{ケンコン}剛柔^{コウジュウ}の質^{シツ}と^ク成^ナり^スもの也^{ナリ}。中^{ナカ}に
理^リと^ク備^ビへ^テ。德^{トク}と^ク備^ビへ^テ。人^{ヒト}も亦^{モト}陰陽^{インヤウ}と^ク以^{ヨリ}質^{シツ}
と^ク名^ナは^ル。質^{シツ}と^ク氣^キは^リ以^{ヨリ}立^ツ。氣^キは理^リと^ク以^{ヨリ}立^ツ也^{ナリ}。心^{ココロ}
理^リ氣^キと^ク以^{ヨリ}質^{シツ}は^リ。理^リ氣^キ合^{アヒ}一^{イツ}中^{ナカ}と^ク備^ビへ^テ
德^{トク}と^ク名^ナは^ル。其中^{ナカニ}と^ク神^{カミ}と^ク名^ナは^ル。然^{シカ}ハ神^{カミ}ハ体^{タマ}と

中也^{ナカニ}。中^{ナカ}の理^リと^ク氣^キは^リ以^{ヨリ}質^{シツ}と^ク名^ナは^ル一^{イツ}也^{ナリ}。其一^{イツ}は
實^{ジツ}と^ク名^ナは^ル。一^{イツ}は天地^{ツチノチ}万物^{マンブツ}の根^ネ元^{ゲン}動^{ドウ}と^ク以^{ヨリ}動^{ドウ}也^{ナリ}。
形^{カタ}ありて^ク形^{カタ}と^ク名^ナは^ル。是^{コト}と^ク靈^{レイ}体^{タイ}不^フ測^{ソク}の神^{カミ}性^{セイ}と^ク名^ナは^ル。
天地^{ツチノチ}は在^アて^ク初^{ハジメ}と^ク以^{ヨリ}名^ナは^ル。万物^{マンブツ}はありて^ク靈^{レイ}と^ク名^ナは^ル。
人^{ヒト}はありて^ク心^{ココロ}と^ク名^ナは^ル。故^ユに心^{ココロ}と^ク神明^{カミ}の舍^ヤ混^{コン}沌^{ジュン}ハ
宮^{ミヤ}一^{イツ}神^{カミ}の本^ホと^ク以^{ヨリ}名^ナは^ル。其^{コト}一^{イツ}神^{カミ}と^ク國^{クニ}常^{トコ}立^タ尊^{ソノ}と^ク名^ナは^ル。
國^{クニ}常^{トコ}立^タ尊^{ソノ}ハ無^ム形^{カタ}の形^{カタ}無^ム名^ナの名^ナと^ク以^{ヨリ}名^ナは^ル。出生^{シュツシユ}し
て^ク無^ム形^{カタ}無^ム名^ナの神^{カミ}也^{ナリ}。虛^{コト}無^ム大^{ダイ}元^{ゲン}尊^{ソノ}也^{ナリ}。名^ナ
は^ル也^{ナリ}。其^{コト}虛^{コト}無^ム大^{ダイ}元^{ゲン}尊^{ソノ}の氣^キ動^{ドウ}て清^{セイ}陽^{ヤウ}
也^{ナリ}。其^{コト}の天^{アメ}と^ク成^ナり。重^{カサ}濁^{ナリ}者^{モノ}ハ地^チのう^チに^ナり。地^チ已^ニ

一貴介問答

惟一宗源ソノカミ也。是神道之大意也。

問曰神世テシカミヨ以来ヨシ共小神カミとして。人と言ヒ次如ヒ何ナニとして神と名ナばルや

答曰加見カミミと名ナばルは加々見カカミと云々ト中畧ナカニシテして

神と名ナけルる也。神代卷曰伊弉諾尊ニギハヤヒノミコ曰吾御宙之

珍子ウツコと生ナんと飲ツして。乃左手ナノミテと以ヒて白銅鏡シロカミと持ツ

則化出チカヒデ乃神カミ也。是と大日靈尊オホヒメノミコと謂イハと右手ミミテに

白銅鏡シロカミ持ツ則化出チカヒデ之神カミ也。是と月弓尊ツキユミノミコと謂イハ

也。是コトも神と申也。凡質ツ何ナニものハ名ナばルはカ呼コト

名ハ理ツと云々ト名ナばル。神乃体カミノカラハ唯一ヒトとして明アカ也

譬ハ鏡のカミ。鏡乃明アカ。陰カゲハ陽ヒトよりシテ。

静シズカなるハ心ココロをシテ物モノと照テラス。私シハ向ムカヒ則スレバ移ウツラ

向ムカヒハ移ウツラと。妍カヨキハ妍カヨク媼ニクハ媼ニクして蹤アトカレハ唯一ヒト明アカ

わハ心ココロをシテ靈レイハ聲コエもシテ臭カもシテ。

静シズカなるハ心ココロをシテ善ヨシハ善ヨシ。惡アクハ惡アクと感カじて。

出入時イデデカク着ツカレハ唯一ヒト小神コカミありニ。然シテ鏡カミ

神カミと同トウ躰カラダカク故ユ小神コカミと称イハすニ。鏡カミとハ心ココロをシテ

心ココロをシテ乃ハ畧リヤク也。妍カヨキ媼ニクと考カガ視ミルハ德チカラハ心ココロをシテ

亦モ邪ヤ正テイと考カガ視ミルハ德チカラハ心ココロをシテ留トモと欲ホシもシ

也。我ガハ考カガ視ミルハ心ココロをシテ。

貴タカ小コ問ト答コタヘ

自敬敬。敬。敬。實自備。内外清淨。心。神。吾小留。座。留。座。心。室。虚。靈。善。取。思。捨。其中。執。行。事。物。皆。節。小。當。安。国。平。治。事。是。事。以。理。示。御。名。也。神。代。世。質。民。淳。神明。德。化。守。靈。保。人。万。民。人。其。神。守。て。靈。保。人。人。統。て。神。と。稱。て。人。と。い。ふ。也。
○問曰神の躰ハ一ニハ則實と實と則道と一ニ事願
多々詳小聞

答曰善哉問。一ハ大道の根元。天地万物の本始。容易言。言ハ心と。其。畧。と。説。夫吾國ハ万邦の首神明。國。あ。て。呂。律。能。調。万。邦。抽。故。に。言。小。無。盡。の。事。理。と。含。め。和。を。以。て。道。以。教。多。り。其。言。神。代。今。世。小。至。す。て。和。け。言。小。ら。と。和。國。と。後。の。世。小。名。多。り。應。神。天。皇。已。後。韓。朝。ハ。言。小。習。て。文。字。ハ。聲。以。て。唱。ひ。多。し。て。和。か。心。言。の。り。心。以。て。誠。ハ。嘆。を。九。氣。を。音。と。し。出。音。ハ。言。と。し。出。言。ハ。名。と。し。出。名。ハ。形。あ。り。て。後。は。心。の。心。ハ。一。と。吾。朝。ハ。心。の。心。と。し。割。り。て。

ひ八開の界。二八開の界。合す所の界。開陽閉
ハ陰。陰陽合す。二と一なからゆへ。二と一と訓也
也。天地陰陽已分て後乃名也。天地未分れ時とて
考れ。ハハ理。ハハ氣。ハハ質。小當也。理氣質ハ三
あり。一乃形生也。其理と云ものハ何として始り。何
して知る。天地の道と一本万殊。万殊一本
とて。一も万物と分き。万物又一小歸也。天地未分れ
理と一本と云。今日一物あり。一理あり。一理あり。万殊と云
万殊ハ理ハ考へ。一本の理々考へ。一理あり。一物あり。
一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。天地未

分れ。一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。天地未
訓又ハハ理。ハハ氣。ハハ質。小當也。理氣質ハ三
あり。一乃形生也。其理と云ものハ何として始り。何
して知る。天地の道と一本万殊。万殊一本
とて。一も万物と分き。万物又一小歸也。天地未分れ
理と一本と云。今日一物あり。一理あり。一理あり。万殊と云
万殊ハ理ハ考へ。一本の理々考へ。一理あり。一物あり。
一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。天地未
分れ。一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。天地未
訓又ハハ理。ハハ氣。ハハ質。小當也。理氣質ハ三
あり。一乃形生也。其理と云ものハ何として始り。何
して知る。天地の道と一本万殊。万殊一本
とて。一も万物と分き。万物又一小歸也。天地未分れ
理と一本と云。今日一物あり。一理あり。一理あり。万殊と云
万殊ハ理ハ考へ。一本の理々考へ。一理あり。一物あり。
一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。一物あり。一理あり。天地未

一貫小用卷三

一貫小用卷三

一貫小用卷三

と一徳元水と云。古く教へたり元水との今流行
 の水ふわつて又其水あつてなれり。其水は
 波をわく。色をわく。寂然不動湛然として無想空
 体か所を元水と云。子思も上天之載ハ聲し
 め。真もわくとして。されど理氣質れ三と其
 無想空体の中ふ。きつてわり。是と無想の想と
 云妙體と云。溟滓含牙ともなり。是と和漢と云
 理と名也。理わらば氣質わらば質わらば
 吾朝小ハ神と名て。虚無大元尊神と云。儒ハ無
 極と名。老子ハ虚無と云。佛氏ハ寂滅と云。神儒

佛并仙家共。大道の根元とする所也。其聲もわく
 真もわく。理ハ目ふ。人ハわく。氣ハもる。ゆりゆり
 湛然不動ハ元水。いこくと。してつて。是よらて
 氣と名づけ。いきか。と云。或上下畧して。氣と
 訓ど。是と二儀と教そり。此火ハ炎上ハ火ふわん
 又其火あくなれわく。火ハ動ハ動く。動んと
 と何ハ始と云也。氣ハもる。質ハもる。氣立事
 質か。醫家ハ氣以て質と成とわり。か。き
 と。通ど。氣と。以て。さ。に。訓ど。是と三
 生木と教なり。木ハ心。心ハ質ハ始ハ故ハ也。心ハ

理氣質リキ質シツ三ミの形カタル生ナ故ユ三則ミツノル一則イツノル一則イツノル
森羅シンラ万像マンゾウ出デれズ理リ過カてキ氣キ及ツとキ氣キ過カてキ
理リ及ツとキ質シツ及ツとキ理リ氣キ過カ不ク及ツとキ一イツ合カフ
てキ質シツ生ナとキ過カ不ク及ツとキ中ナカ也ナリ中ナカのノ德トク過カ不ク及ツとキ
滿マン足トク以テ實シツとキ名ナ之ヲ然シテ之ノ全ゼン体テイ理リ氣キ質シツ中ナカ實シツのノ
五イツめテ成セイ就ジュとキ何ニ也ナリ中ナカ實シツのノ二ニ質シツよク也ナリ
五イツ六ロク三サン二ニ歸キ一イツ三サン一イツ二ニ歸キとキ何ニ也ナリ此コノ一イツ動ドウがキ何ニ時トキ五イツのノ
溟メイ津ジンてキ内ウチ小コあリとキ聲コエもナあリとキ真マコト之ヲかク是レ以テ無ム
想ソウ一イツとキ也ナリ動ドウくキ時トキ即スレバ有ウ想ソウのノ一イツとキ名ナけク動ドウ時トキ
五イツのノ皆ミナ動ドウきキ也ナリ實シツとキ云フのノあリとキ云フのノあリとキ

行ユク也ナリ其ソノ實シツ行ユクのノ道ミチとキ名ナ也ナリ孔子コウジもナ吾ガ道ミチ一イツ
以テ貫スル之ヲのノ一イツとキ也ナリ此コノ實シツ以テ云フ則チ實シツ一イツのノ全ゼン体テイ
道ミチのノ根ネ元ゲン也ナリ故ユ此コノ一イツとキ儒ニウよク大ダイ極キョクとキ名ナけク佛ブツ氏シもナ
一イツ圓エン相サウとキ云フ吾ガ朝アサよク六ロク國クニ常トキ立タテ尊ソウとキ申マウ也ナリ此コノ神カミ之ヲ内ウチ
内ウチのノ理リ無ム想ソウとキ有ウ想ソウとキ何ニ也ナリ最サイ初シヨのノ神カミ也ナリ二ニとキ
國クニ狹サマシ樞シュ尊ソウとキ申マウ此コノ神カミ一イツのノ内ウチのノ氣キ體テイ三サンとキ豐トヨク斟シム停テイ
尊ソウとキ申マウ此コノ神カミ一イツのノ内ウチのノ質シツ躰テイ此コノ三サン神カミ以テ獨トク化カのノ神カミ
とキ宗ソウのノ一イツ也ナリ皆ミナ陽ヤウ神カミ也ナリ質シツのノ理リとキ氣キのノ二ニとキ生ナとキ
少シウ一イツ泥ニ土チ黃ワウ尊ソウ涉セツ土チ黃ワウ尊ソウのノ二ニ神カミ一イツ時トキ出デ生ナとキ
中ナカ質シツとキ一イツ條テウとキ何ニ也ナリ大ダイ戸コ路ロ守シュ大ダイ古コとキ尊ソウ

續前編卷二

一、出生以家之中と云て行ふに而尊
惶根尊一時の出生に此三神と耦生神と崇を
分皆陰神也陰神陽神合て一と成る是に於て
有想乃一の全体成就して後伊特諾尊伊特冊
尊出生一は是則陰陽合一乃神明也然ハ秋
先ハ形以成るのわら夫無始無終乃一始て動ん
と云ハ氣以神道ハ名を云一乾金氣と云此神妙
不測乃金氣以得て動く動るハ清陽者
やく薄靡て天とかり重濁者と云くと淹滞て
地とかりて天地已判あり周氏所謂大極動而陽以

生動極て靜靜而陰と生陰以分陽を分て兩儀立
と云是也天ハ一の内の理則陽とかりて氣以率て質
と成ゆハ圓ハ地ハ一の内ハ氣則陰とかりて理以
載て質を成ゆハ方也人ハ一の内ハ質則陰陽和合
と以て理氣以備て生ゆハ天地方圓の形と全備
て質以成る故ハ儒家に人ハ一ハ小天地と云又周子
の人也其秀と得く最靈と云是也然ハ天と一ハ中と
以て立實行地も一ハ中と以て立實行と行人も一ハ
中と以て立實行都て立實行と行を云ハ道地ハ道ハ
道と云故ハ神の本ハ一則實と則道と云一也

貴州附錄

上

問曰願ハ詳ニ天人合一ノ道ハ開ル

答曰天ニ一ノ開地も一ノ開人も一ノ新生也然
則一ノ主ニ一ノ行を天人合一ノ道ニ一ノ人
ノ名ニ一ノ名も一ノ名ニ一ノ名ニ一ノ名ニ一ノ名
ニ一ノ神ノ身心ノ主也天地ニ在テハ神ト一ノ神天
在テハ靈ト一ノ人ニ在テハ心ト一ノ皆一神也此一神天
小在テハ圓滿ノ象ニ一ノ日月星ノ三ニ一ノ
生長化收藏レ令レ施一ノ三千世界ニ覆テ万物ニ
生レ地ニ在テハ方角ノ象ト一ノ山河大地ノ三ニ
一ノ木火土金水レ化レ造テ三千世界ト載テ万物

化育ト人ニ在テハ陰陽全体ノ質ニ一ノ魂魄神
ノ三ニ一ノ仁義禮智信ノ常ニ一ノ三千世界ニ
測テ万物ニ就也夫人ノ生ヤ支婦懷胎ノ一滴子丑
寅ハ三ヶ月々獨化ノ神理ノ場陽也卯辰巳ハ三ヶ月
々耦生ノ神氣ノ場陰也午未申ハ三ヶ月ハ獨化耦
生ハ二神合一質ニ場中也酉ハ十月々に胎充ありテ
母ノ腹ニ一ノ生分是實也心ノ生成も又ハ一ノ
獨化三神理体レ一ノ陽則魂ト一ノ耦生ハ三神ハ氣体レ
一ノ陰則魄ト一ノ魂魄合一ト一ノ藏レ成テ神明在ト故心神
明ハ舍混沌宮ト一ノ心ハ天ノ家ト一ノ

其中に陽魂陰魄を合して

其一則申月

心く若げくろし陰陽ありて云々ありて通され
之其一中也中へ實の躰也理氣質中実ハ五の
多皆理に属し心よりして性情意念思慮ハ六の
氣備て則此理氣は心の質成り之性情意
念思慮ハ六の亦理氣備て立るの也夫性ハ理也理
氣混合して人の性ハ心よりして心よりして
訓じ情ハ氣也氣と動んとして心よりして
心よりして心よりして心よりして心よりして
心よりして心よりして心よりして心よりして

神の場陽ありて皆理に属し念ハ意ハ是非と念
ありてありて訓じ思ハ是非を念て中道ハ心
思ハ敬けりよかむして訓じ慮ハ敬て道徳ありて
心よりして心よりして心よりして心よりして
心よりして皆氣に属し氣ハ善惡に感り之氣ハ物
感や初念理より感り之性情意正しく思慮中に
叶ひ実ありて心よりして心よりして心よりして
意正らず思慮中に叶ひ實ありて心よりして
之道自行実ありて心よりして心よりして心よりして
と翻して道ハ心よりして心よりして心よりして

對して一怒ありて天下畏き天下治也。其怒哀
 樂未發是心中也。發而皆節は中是と和と謂
 し。子思ののるる是也。実かに人の常は怒怒と来
 其事として慮らるるは思邪ふして怒んと念意
 情を入て邪氣の怒りなり。終は性乃理より人
 心の支配は肝と力に合て怒りて怒りて
 止し之も止令る時とありて人と傷ひ又吾身と
 傷る。一朝の怒り其身は忘て其親も及がると惑
 はれやと云是也。餘の六はもの皆かくれん則中
 道は忘るるは心乃異也。中道知もの悟と云

中道は心乃の成はるる迷と私とを迷るるは
 公と云。公と天理より出。私は人欲より出。私と云は
 事を行ふの情より情は流て二となりて終は天
 理の中と得と。実かにゆへは道行はれど。国家を
 下乱るの基と云はれ。公と云はるる事と行ふの情より
 性は歸りて一日からゆへは天理の中道は叶ひ。実
 成得て道行はる。國家天下治之本也。天命は興之も
 天下の治乱も皆人心の徳不徳より成る。是と天人
 合一の道と云也

○問曰至哉一の理も何事。畧其首と得る。原詩

續小問卷二

中と実との受用は聞如何

答曰夫無想有想の想は其のものの中と云。質は生乃始也。其中体は質らば實らば實と云。想を成の終也。則天地万物の根元道体の本然や。中とい偏をらば倚あると過不及の名なく。理なくも。氣なくも。中といありと。理氣和合する中と云也。なるは。かきながら。畧のきや。通か。ゆきと云と中畧通句にて中と割と。其中は氣より質のりして。うゆこと。以實と云也。実とい。うゆと云畧語のうゆとい味は

て出る言うや。何と進其の其の味の本辛苦酸醜の味は分也。一切の食物皆人と養と。只米穀は味其平脾胃小入て元氣以養ゆ。人皆きうとい。うく。うゆい。ふゆて満足也。中身の理はうゆ。米穀の其の心ゆく。人皆満足ゆ。ゆき。ゆき。辛苦酸醜は過不及のや。小調味と。これ口小うゆ。腹よ。うゆ。調味と。ゆい中也。調味して。羨き。実の方殊ら。ゆい。物くの理は中と云。一物く。理のりて行。ゆ。以實と云。一本と云。ゆい。天地の開も中よ。開字。実とい。ゆく行。其妙体と神と名けを。貴介明卷三

然る中、神の体、實に神の用也。板中實に受用、
敬に「一なり」とや、上古より神聖の教也。けい土也。こ
ろ。ちのじし土ちのじは敬と云。通句中畧し言也。此
藏と天の象、形圓内空也。清陽の氣、坤。獨陰の
氣、ちのじ。心の塵土も、ちのじ。敬と云。敬で塵
靈不味なれば、神明舎て清浄潔白也。譬、明鏡の
ち、湛水のち。孔子も明德と説、ちのじ。夫
人、内は喜怒哀樂の七情あり、外は眼耳鼻
口の七竅あり。心の物は、感と心。七竅あり、應と心。
先目の視と、耳の聽所、鼻の、口の味所、敬則

思慮意念は實と備。性情も中は存。七情正して、執
着なく、心地静ふして、心鏡謚して、神明留座。則好色淫
聲美味も汚と、ちのじ。行くと實あり。實、ちのじ。の、
勉として福到。思として善け。我讓て能人の性
は盡し。人の性は、ちのじ。時々能物の性は、
物乃性と、ちのじ。能天地の化育は、
と受。是は天理の、名也。敬、ちのじ。則思慮意念
冥なく。性情中は失、ちのじ。七情邪、
して心鏡曇。神明去て、邪入。則好名媼聲美味
と貪。行くと偽多。偽多者、
と貪。行くと偽多。偽多者、
と貪。行くと偽多。偽多者、

ずして科^カけし我^ガ満^{マン}ちて能^ノ人^ノ性^ノ以^テやぶる人^ノ性
 と傷^シんば能^ク物^ノ性^ノ以^テ敗^ルる物^ノ性^ノを傷^ムる能^クる
 地^ノの化^育以^テ失^テて冥^ク罰^ヲを受^ケ是^ト人^ノ欲^ハ私^ノ也^{ナリ}故
 敬^ス則^チ中^ニ實^ニ以^テ得^ル敬^スる時^ハ中^ニ實^ニと失^フ古^ノ異^朝ハ
 唐^ノ堯^ノ天^下ハ虞^ノ舜^ノ後^テ咨^テ汝^ノ天^ノ曆^ヲ數^ス汝^ノ躬^ヲ
 わり^ニ惟^レ精^ニ惟^レ一^ニ也^{ナリ}其^中以^テ執^スる^ニも^ハ惟^レ精^ニ
 敬^ス本^ニ也^{ナリ}敬^スで中^ニと執^スる^ニも^ハ孔子^ノ敬^スで其^統以^テ
 繼^ズで中^ニ仁^ノ本^ニと曉^スる^ニも^ハ仁^ノ一^字以^テて三千
 八^門第^一示^ス七十^二君^ノ逢^フて中^ニ實^ニ道^ヲ以^テ説^ク子
 思^フ其^統と兼^テけ^ル仁^と曉^テ中^ニ庸^ノ教^ヲと^スる^ニも^ハ中^ニ仁^ニ

庸^ハ實^也性^道教^ハ三^以て天^人合^ハ乃^誠と示^ス孟
 軻^ハ子^思ハ統^と兼^テて仁^義ノ二^以て道^ヲ以^テ説^ク
 仁^ハ中^ニ義^ハ實^也也^{ナリ}世^時々^戦國^ノ仁^義と先^立て仁^ノ入
 の教^也吾^朝天^照皇^太神^ハ八^坂瓊^曲玉^と神^勅
 曲^玉と凡^レ吾^國無^上靈^寶三^種ノ神^器第^一
 神^筆也^{ナリ}此^神筆^深々^ハ相^傳わ^レる^ニ先^ハ神^明ノ本^心
 中^ハ全^体實^ノ實^像天^地万^物ノ根^元也^{ナリ}異^朝ハ仁^道自
 然^ニ合^スる^ニも^ハ此^三種^ノ靈^寶以^テ保^フ敬^スる^ニも^ハ保^フ
 敬^ス天^照皇^太神^宣く人^々乃^天下^ノ御^賜カ^リ須^ク
 靜^カシ謚^スる^ニも^ハ掌^トす^ル也^{ナリ}靜^カシ謚^スる^ニも^ハ敬

其事之然ハ神明モ聖賢也。敬之得之。中實此道ハ。況凡人須臾も敬あき時ハ。何道ハ入ヤ。中實ハ受用ハ敬ハ一也。平生敬之ハ。中實自備テ道ハ入ド。心ハ安カシク。

○問曰吾國ハ日本ト号スルハ如何。答曰神代ハ吾國ハ大八洲ト名也。夫吾國ノ始祖伊弉諾伊弉册尊此國ハ生んト思召ル共計有リ。先淡路洲ハ生ん。今世ノ造ト云之。洲極テ小洲カレハ吾國ノ一ノ部ニ入ド。又共計テ滄海無限ハ洲トハ割ル第一ハ大日本

豊秋津洲次ハ伊豫二名洲次ハ架紫洲次ハ隱岐洲ト佐渡洲ト雙々生ん。其ハ射ト。国土ト同程カ分ル。今凡人一時ハ二子ハ生ん。是より起次ハ吉備子洲以上合テ八洲カ分ル。故ハ大八洲ト名之。ハ割ルハ天地ハ方ハ數ハ本ハ多ク。又ハ大日本豊秋津洲トモ名也。大ハ賞養ハ辞。日本ト云ハ小ハ説々多ク。一云山跡ト云義。上古ハ天地已ハ判。水土未燠。人山ト往來。山ハ人跡ハ少ク。山跡ハ少ク。人山ト往來ト云。又ハ山止ト云義。古ハ住ルハ止ト云。山止ト云ト畧して日本ト云。又ハ山戸ト云義。戸ハ家ト云。室家ト

堅カタひつもの戸カドん。古コハ山ヤマは室家ムロノカミと云イハれく山ヤマ氏家ウヂノカミとする
也ヤ。山ヤマ戸カドと云イハ。此等コノトコの説セツはらうくうウず。やヤと云イハ。天地チチ始ハジまり
開ヒラ自然シズカニ乃ハ声コエ早ハヤき心ココロ也ナリ。内ウチ々ツツ的テキと云イハ。心ココロ也ナリ。的テキと云イハ。内ウチ々ツツ的テキ
中ナカ畧リョク天地チチ也ナリ。用ヨウく否イナ返ヘく小コ吾國ウラノクニあり。譬タトヘハ矢ヤと放ハナつ
いた也ナリ。的テキと云イハ。乃ハらうウず。故ユヘ日本ヤマトと云イハ。是コノ正説マサシツ也ナリ。豊トヨと
と豊鏡トヨキョウの心ココロ。ゆユつツかカ向ムカ祝語イハヒゴト秋津洲アキツシマと云イハ。吾國ウラノクニ蜻蜒アキツ虫ムシ
ハハらうウず。秋アキハ万物マンブツハ收イデ時トキ。
津ツハわつツふフ事コト。豊トヨハ万物マンブツ收イデつツわワのノ事コトハ洲シマと云イハ。心ココロ也ナリ。
又マタハ豊トヨ葦原アシハラ千百秋チヒャクアキ瑞穂ミズホ國クニも云イハ。豊トヨハ上ウヘと云イハ。同ドウ葦原アシハラ
と云イハ。葦アシ之ノ種タネ分ワくクして生ナると云イハ。繁シガレも乃ハ云イハ。千チハ數カズハ大オホ

五百イホハ小コ秋アキハ收イデ時トキ。瑞ミズホハ清淨セイジヨウハ心ココロ。穗ホハ草クサ木キハ穗ホ也ナリ。此國コノクニハ
水ミヅ土ツチわワもモハ葦アシいイてテ繁シガレ昌シヨウ。大オホ小コ共トモハ時トキと得エて清淨セイジヨウ
ハ穗ホ出デぐグと云イハ。國土クニノチ繁昌シガレシヨウハ乃ハ云イハ。祝イハヒと云イハ。名ナハ多オホク
人ヒト王オウ神カミ武ブ天テン皇スミハ時トキ神代カミヨの八洲ヤチシマと割ワて四十二シジュウニ個コ國クニと
云イハ。五畿内イツキノチ五イツ個コ國クニ。東山道トウサンミチ八ヤチ個コ國クニ。東海道トウカイミチ十五ジュウゴ個コ國クニ。
山陽道サンヨウミチ八ヤチ個コ國クニ。山陰道サンインミチ七シチ個コ國クニ也ナリ。其コノ後ノチ又マタ六十六ジュウジッ個コ國クニと別ワ
也ナリ。日本ヤマトと計ハカリ稱イハふ。神武帝カミミコ乃ハ時トキハ稱イハふ。神武
紀キ云イハ。大己貴オホニギハヤヒ太神オホカミ日ヒ之ノ日ヒ玉ヒメ牆カキ内ウチ國クニ饒速日ニギハヤヒ命ノミコト天磐アメノイハ
船フネハ乘ノリて太康オホキヨウ代ノチ翔行カケリユクハ到イデる及マデて是コノ御ミコト代ノチ觀ミ望マツル也ナリ。
乃ハ降クダり固カタて此コノと虛空ソラ見ミ日本國ヤマトノクニと曰イハ。乃ハ是コノ

貴小胡卷三

より歴空見と畧して日本と傳之り日本と聲小
て称ふ事。人皇十六代應神天皇乃御宇百濟國
の王仁以りて漢語以習りて後來て唐書曰
日本者和國の別稱其國日邊よりあり日本以りて名
を扶桑國和人國倭面國其外種々の名あり今か
るは不及し
貴介の云子襟以正して跪坐して問曰願々天照皇
大神乃御出生及天上以治多ふて以聞
答曰神明御出生之事深々妙々此理のりてり小語
をりしもの神代卷初遍の一通を言謹で聞ふ

夫吾國の元祖伊弉諾伊弉冉尊と申。天神六代の
理氣以受ふ多し神明也國常立國枝根豐斟淳凡
三神也。獨化の神として理体凡神也。渥煮土沙土煮大
戸路大首邊面定根の三神。耦生凡神として氣
体凡神也。此六神の理氣以合ふて。伊弉諾伊弉冉
尊出生りて。伊弉諾尊へ理体以至て。陽より故り
男神と生れ。伊弉冉尊へ氣體以至て。陰よりゆよ
女神と生れ。是より陰陽凡神明出顯りて。多し天
の浮橋の上。陰陽凡二神。多し。共計日
座下国分りて。天の瓊矛以りて指下りて

貴介問答

凡

かき探サツす。是コトは滄海ソウカイに得トクたり。其その牙鋒ガササより瀉ゲツの潮シホ凝コリて。一ヒト嶋シマと名ナれ。碓ウシ敷シキ廬嶋ロシマと名ナれ。此この嶋シマへ伊弉諾イサノ伊弉册イサハシ二神ニカミ天降アメノカミりて。夫婦フウフと名ナれ。大八洲オホヤマト山川セキ草木クサキと生ウミる。是この夫婦フウフ逢ユヅル合アハスの始マタリ也。其その国クニ土山ツチヤマ草木クサキと到イタる。各それぞれ其その所ところに治チカる。此この国クニに主ミコトたるもの生ナる。この國クニに生ナる。此この御子ミコ理氣リキ質シツ全備ケンビ。陽德ヨウトク圓滿エンマン。日ヒ射イ得トクる。日ヒ神ニカミと名ナれ。奉ホウる。其その德トク光華コウカ明彩メイサイ。六合ロクヘの肉ニクと照徹テリトス故コト大日オホヒ靈貴ミタマとも名ナれ。又また天照アメノミタマ大神オホカミとも申マカる。す。

伊弉諾イサノ伊弉册イサハシ二神ニカミ喜ウレシク日ヒ吾息ワカスミ多オホシと名ナれ。之この國クニに靈ミタマと異イヘき兒ミコと名ナれ。久オシ此この國クニに留トドる。之この國クニに自ミソカ早ハヤく天アメノと送フクる。後ノチに天アメノと送フクる。天アメノと送フクる。是この國クニに天子テンシの始マタリ也。次ツギに月ツキの神カミ生ナる。此この御子ミコ一ヒト德備トクビと名ナれ。射イ得トクる。其その光ヒ日ヒ小亞コアと名ナれ。日ヒと配マカりて治チカる。是この國クニに張テる。盈ミチ池イハと名ナれ。具タる。見ミる。尊ミコトの中ナカ也。滄海ソウカイの潮シホ八ヤチ百ヒャク重ヘの干シ滿マンと名ナれ。主ミコトと名ナれ。

地下以治。句。是吾国臣。始也。是。小。方。也。臣。以。月。御。
雲。客。一。子。也。次。子。蛭。兒。以。生。句。多。小。此。子。三。歲。一。子。也。
足。猶。立。句。伊。辨。諾。伊。辨。母。尊。柱。と。巡。句。多。小。時。陰。
神。先。喜。言。以。來。句。多。小。陰。勝。て。陽。負。形。蛭。子。の。
ふ。く。か。故。子。と。名。く。陰。勝。て。陽。折。た。ま。ふ。は。ら。
て。足。猶。立。句。葦。舟。に。乘。て。風。の。頭。に。故。棄。句。多。小。
陰。陽。中。和。の。理。一。肖。句。多。小。夷。と。名。く。第。三。一。生。始。
以。夷。三。弟。も。名。を。中。也。是。一。句。多。小。中。和。の。理。以。得。句。多。小。
國。以。夷。と。云。五。休。不。具。一。生。句。多。小。皆。此。理。一。起。句。多。小。
次。一。素。盞。鳴。尊。以。生。句。多。小。此。子。質。性。殘。害。以。好。又。勇。

悍。一。安。忍。句。多。小。帝。以。哭。泣。以。行。句。多。小。國。内。れ。
人。民。以。多。文。析。青。山。以。枯。山。一。か。と。一。し。惡。一。す。句。多。小。
ゆ。一。素。盞。鳴。尊。と。名。く。句。多。小。一。と。一。通。惡。一。荒。と。云。
心。一。又。惡。一。速。一。荒。一。ゆ。一。速。素。盞。鳴。も。名。也。其。
父。母。一。二。神。素。盞。鳴。尊。に。勅。曰。汝。一。甚。無。道。宇。宙。小。
君。多。小。一。遠。く。根。の。國。一。適。云。一。遂。一。惡。人。と。
追。放。句。多。小。是。一。始。一。根。の。國。一。無。陽。の。地。繁。昌。句。多。小。
が。り。所。以。云。一。素。盞。鳴。尊。父。母。の。追。放。と。受。て。怒。と。含。
直。一。根。の。國。一。行。句。多。小。天。照。皇。太。神。一。暇。句。多。小。一。
句。多。小。天。上。以。集。句。多。小。如。惡。念。以。以。て。天。上。に。上。句。多。小。

讀本問答

いふゆへに淇朝も鼓盪山岳も鳴响るる此神性
雄徒がかり所目神の御心明鏡のふゆり
素盞鳴の悪念早移りしゆ座陣張と為座陣
る目神の女射るも男体は変じ乃髪は結
て髻を裳に纏て袴を八坂瓊の五百箇御
統のゆへ其髻鬘及腕に纏又背に千箭の敷
し五百箇の鞠を以て負臂に後威の高鞠と著
る疎振多て劍柄急握堅庭に踏て陷腰少
沫雲のふと散一稜威雄言は奮後威の
噴謀は祭して徑に詰問ふゆへ是皆素盞鳴

尊の悪念り座陣張と為是と神軍と云則軍
陣の始也時素盞鳴尊此座陣に驚て悪念忽
變じて善心と成対曰吾元より黒心なり但父母
已に嚴き勅わり永根の國に就る若姉の尊小相
見ゆと吾何能去やと雲霧に踐涉遠ら来
參翻て嚴顔多りんと汝意を實心とすの事
故其真心天照大神の心鏡に早移り大神曰若然
何ゆへに赤心は明や對曰請姉の尊と共に
誓誓約の中は必子に生じ如吾生子は女なり
濁心ありとわらば若是男ありは清心ありとわらば

貴介問答

卷

のるふ。今世の誓言と云事是より始分。天照太
神則素盞鳴尊八十握劔以索取打折て三段
して天の真名井小濯ぎ。詰然と咀嚼て吹棄氣噴
の袂霧の所生神代號て田心姫と云。次は湍津姫
次は市杵嶋姫三女。既して素盞鳴尊。天照
大神、髻鬢及腕の所纏八坂瓊花五百箇御統以
乞取天の真名井に濯ぎ。詰然と咀嚼て吹棄氣
噴。袂霧の所生神代號て正哉吾勝勝速日天
懸穗耳尊と申。次は天穗日命。次は天津彦根
命。次は括津彦根命。次は熊野櫛樟日命。凡五男

夫誓と云りを下の下界之素盞鳴の誓言、惡は
變じて日神の善は受へる。八十握劔と云取
三段と云るは、十握劔と素盞鳴、全体陰惡の
表則天上に棄てて、所は義之。三段と云日神に座陣
小感て惡既の善と云るは、實は心より吾元黒心か
のるふは義の姉と云るは、根の國へ行なすは
々仁に。雲霧は踐涉遠より来ると云禮也。此三代實頭
三段と云るは、其實は大神の真名井小濯と云大神の
真氣わらふる所以と云名井と云。則丹田氣海に臍
下は落付くは、小濯と云るは、素盞鳴惡善小成と云

貴月問答二

くわくわく生氣吹かす。三女生まじ。丹心姫
と名ふも。日入神。丹田小ころ。之を我人。是より
悪代善。愛代美。若井と云事。始より。又既り
て素盞鳴尊。天照大神の髻鬘及腕。はるや。八
坂瓊九百面御統と乞取ら。大神は全体陽善座
陣。成る。至極より。感心尊。去氣の本真。若井
よ。そし。吹かす。生氣吹出。る。男神生
に。親て。正哉吾勝。尊。男神は生る。日
の神。正哉吾勝。云心也。勝。速善心
開て。天恩總耳。天理。天恩。出る。御

子か。小ら。御名。紐。相。て。御子生
あ。心。及。道。地。是。感。應。氣。化。い
て。御子生。理。天地。万物。生。神明。元。天地
感應。より。氣化。万物。生。神明。元。天地
同体。日神。尊。氣化。小。出生
如。是。今日。夫婦。溝合。て。子生。其。因。縁。感
應。氣化。何。程。溝合。て。子。出。来。る。も
也。時。天照。大神。勅。日。其。物。根。原。八。坂。瓊。御
統。是。吾。物。也。故。彼。五。男神。悉。是。吾。兒。也。
宣。取。て。養。給。又。勅。日。其。十。握。劍。是。素。盞。鳴。尊。

物之故此三女悉是汝兒なりとのりて便に素
盞鳴尊小授始く是大神れ全体陽善。素盞鳴
陰惡化をりて。天上太平に治也。是天柱に
く治
は美くくのおとま大乱也。劍戟に事い不及して。惡
人忽に善神のやせ始は。是神明の德化也。是神明
御出生天上に治るる乃大畧也
○問曰天照太神天窟石に入給諸神神樂と奏と
ふ事如何

答曰素盞盞鳴尊誓約て善心成るるも氣質元
惡の心ゆゑ暫して彼誓約忘て又種々惡に化

一始に元惡人を一改めて少間して惡事又かこ
は是より起まり。尊誓約後根の國へも行は
む。其後天上より。天照太神は天狹田長田
に御田あり。素盞盞鳴尊春則重播種子と
種に播り上へ又種に特種に惡とがの候
あり。其上小田にありて毀るる。秋に則て天に班駒と
田中に放ちて。稲に換へて復天照太神當新堂
時則陰放屋於新宮と。新米始出せし清淨
とて。天に神へ新米に備て奉給。後の世に新嘗會
と云ふ是より起まり。其清淨の宮に陰に放屋と

貴介問答二

三

とく。糞土^{フニ}以^テ入^テ不^レ淨^シ。又^ニ天照太神^{アマテラス}齊^ニ服^ス。
殿^ミ居^テ神衣^{カニミツ}以^テ織^ル。多^ク其^ノ殿^ミ以^テ毫^シと穿^テ天^ノ。
班^{フキ}駒^コと剥^ク以^テ投^ル納^ル。多^ク是^ノ時^ニ天照太神^{アマテラス}驚^キ動^ク。核^カ。
とみ^ク身^ヲ傷^ム。允^ニ天下^ヲ治^ム。上下^ノ万^ノ民^ノ衣^ヲ。
食^ハ住^レ三^ニ代^ニ安^ラ樂^シ。い^ハと^ク太平^トと^クい^ハる^ニ。素^ス盞^サ鳴^キ。
尊^{カニ}神^ニ衣^ヲ以^テ妨^グハ衣^ヲ以^テ害^ス。重^シ播^ル以^テ妨^グハ食^ヲ以^テ害^ス。新^ニ宮^ニ。
以^テ妨^グハ住^ノ以^テ害^ス。此^ノ三^ノ以^テ害^ス。天下^ノ大^ニ惡^ク。大神^ノ以^テ力^ヲ。
も^ト及^ブ。如何^トも^トと^クい^ハる^ニ。い^ハる^ニ。温^ク。
發^ル。後^ニ。天^ノ以^テ密^シ石^ヲ入^ル。磐^ノ戸^ヲ閉^ル。幽^ニ居^ル。ま^は。
是^ノ時^ニ六^ノ合^ノ以^テ常^ニ闇^ク。一^ノ晝^ノ夜^ヲ以^テ相^ニ代^ル。あ^らも。

あ^らも。天下^ノ以^テ石^ヲ機^キ息^ム。い^ハる^ニ。八^ノ十^ノ神^ノも^ト天^ノ以^テ安^ラ。
河^カ邊^ニ會^フ合^シ。其^ノ禱^ヲ以^テ計^ル。多^ク故^ニ思^フ。
兼^カ神^ニ深^ニ謀^ル。遠^ニ慮^ス。遂^ニ常^ニ世^ニ長^ク鳴^ク鳥^ヲ以^テ聚^ル。互^ニ。
長^ナ鳴^ク。是^ノ陰^ニ。陽^ヲ以^テ起^ル。表^ス。是^ノ以^テ鳥^ヲ居^ル。
名^ク。今^ノ神^ノ前^ニ先^ニ鳥^ヲ居^ル。立^ル。是^ノ以^テ始^メ異^ニ朝^ト。華^ク。
表^ス。名^ク也。亦^ニ手^ヲ力^ヲ雄^ノ神^ヲ以^テ磐^ノ戸^ヲ以^テ側^ニ立^ル。中^ニ。
臣^ト連^ル。遠^ニ祖^ト天^ノ兒^ト屋^ノ命^ト。忌^ニ部^ト。遠^ニ祖^ト太^ニ玉^ノ命^ト。天^ノ以^テ香^ヲ山^ヲ。
の^イ五^ノ百^ノ箇^ノ以^テ去^ル坂^ノ樹^ヲ以^テ掘^ル。上^ニ枝^ヲ。八^ノ坂^ノ瓊^ノの^イ五^ノ。
百^ノ箇^ノ御^ノ統^ト。懸^ニ中^ニ枝^ヲ。八^ノ咫^ノ鏡^ヲ以^テ懸^ル。下^ニ枝^ヲ。八^ノ青^ノ和^ノ。
幣^ヲ。白^ノ幣^ヲ以^テ懸^ル。相^ニ与^ル。致^ス其^ノ祈^ヲ禱^ヲ。又^ニ猿^ノ女^ノ君^ヲ。

昔^ノ月^ノ塔^ノ二

一

遠祖天鈿女命則手に芽纏の稍と持天石窟戸
の弁五巧は作俳優亦天香山の真坂樹とて
鬢小蘿波以手纏カカラ火如燒霞後槽置ホトトギス頭
神明之憑談是神樂の始是時天照大神聞
て曰吾比石窟閉居謂常に豊葦原中
國必為長夜何天鈿女命スツノウスメノ唯樂ユラタ哉
則御手テ細ホス磐戸イハチ開て窺ミテと時
手力雄神則天照大神ミチノ手テ奉養ホウヤウて引ヒキて
てけり是於て中巨神ミナモトノ神カミ則ミ端出チリクメ之
繩ナハ以ヒキ乃ナラ請コト曰ク勿レ後アト還マシ幸コト是レ神カミ以ヒキ勸コト

請する處は、あめ代張し始り繩をわしを
と通ふといふ通句下界に清淨水と直
いと云ふ端出の繩の尻とて結りて
繩の端出くじり善惡はて中代用の心也後世
はあつとくあつとを中畧して、あつとく然後諸神
達罪と素盞鳴尊歸て科之千座の買
戸を以て、遂は促徴を髪カミ後アトに到て
其罪以て贖示日手足の氣と核て贖アキ已マして
竟は遂降焉根の国へ行ふ手足の氣と核
は是悪人と肉刑の始也此尊根の国へ行ふ

貴月卷三

卷三

天上大は治り安國と云ふ。是より天照太神は地
神第一の君と崇めゆて、則ち天上は治り、
二十五万歳。弟二代正哉吾勝々速日天忍穗耳
尊天下と治り、三十一万歳無為、静謐也。高皇產
灵尊の女栲幡千千姫代妃とて、天津彦火瓊々
杵尊と生むる。弟三代瓊々杵尊は、則ち天照太神
の孫也。天上より降臨し、中津国に治る。
是より、的々相義とて、今上皇帝とて、位と継ぐ。
是葦原中津国に始祖神也。
○問曰、天照皇太神天上に治り、中津国に何の

神治たまふと云

答曰、中津国に國造の素盞鳴尊、父大己貴に神也。
素盞鳴尊、八十万の神達を逐らり、肉
刑に逢給て、後、罪非と後悔して、悪心變じて
善神と成り、天上に去り、出雲國簸の川上に降到
り、時、川上に啼哭、声あり、声と尋て、覓往
り、一人の老公と老婆とあり、中間に一人の少女
と置て、撫ひ、哭、素盞鳴尊曰、汝らに誰や、何
として哭や。對曰、吾は是國神号、脚摩乳、我妻
の名、手摩乳、此童女、吾兒也。號、奇稻田姫、哭ゆ

續前問答二

三

ハ往時^{カキ}。吾兒^{ガコ}八箇^{ヤタリ}の少女^{シヤメ}あり。年^{トシ}ぶふ八岐^{ヤタ}の犬^{イヌ}蛇^{ヘビ}あり。吞^{クハ}まり。今^{イマ}此^{コノ}少童^{シヤウトメ}且^{マダ}吞^{クハ}ん。脱^{ダケル}免^ルより。故^{ユヘ}。哀傷^{カナシム}し。中^{ナカ}次^ジ素盞^{スサノ}鳴尊^{ノリノ}勅^{ツケ}して曰^{イハレ}。若^{ニシ}然^{ニシ}ハ汝^{ニシ}の女^メ比^ヒ以^テ吾^ガ。奉^{ホウ}耶^ヤ。對^テ曰^{イハレ}。勅^{ツケ}のまに奉^{ホウ}。故^{ユヘ}。素盞^{スサノ}鳴尊^{ノリノ}立^タ化^カ。奇^{クニ}稻^{イヌ}田^タ姫^{ヒメ}と湯^ユ津^ツの仇^{ツクシ}櫛^シ。りりて。御^ミ髻^{ツラ}。棒^{ササ}。多^タ。則^チ脚^チ摩^マ乳^チ手^テ摩^マ。乳^チ。て。八^ヤ醞^{ホウリ}の酒^{サケ}と釀^{ツク}并^ニて假^サ夜^{スキ}八^ヤ間^マと作^{ツク}各^ノ。一^{ヒト}槽^{サカフミ}を置^キて。酒^{サケ}と盛^チて待^マち。假^サ夜^{スキ}。今^{イマ}ハ棧^{ササ}敷^キ。ハ事^{コト}。是^{コト}より棧^{ササ}敷^キ。云^{イハ}ハ。女^メ。の至^ト期^キ。果^ハて。大^{オホ}蛇^{ヘビ}あり。頭^{カビラ}尾^ビ各^ノ八^ヤ岐^{マタ}。眼^メ。赤^{アカ}。酸^カ。督^カ。の。び。く。

松柏^{ソウバク}背^セの上^ノ。生^ナて。八^ヤ丘^{ツチ}八^ヤ谷^ヤ。此^{コノ}間^マ。蔓^{マン}延^{エン}。酒^{サケ}と得^{トク}。到^ツて。頭^{カビラ}各^ノ一^{ヒト}槽^{サカフミ}。ハ。入^イて。飲^{ノム}。睡^ス時^{トキ}。素盞^{スサノ}鳴尊^{ノリノ}所^{トコロ}帶^{オビ}十^{ジュウ}握^クの劔^キ。以^テ拔^{ヒキ}て。寸^{ツブ}小^コ。其^ノ蛇^{ヘビ}を斬^キ。今^{イマ}。太^{オホ}刀^{タチ}と帶^{オビ}。と云^{イハ}。是^{コト}より始^{ハジ}まり。尾^ビ。到^ツて。劔^キの刃^ハ。必^{カナラ}。缺^{カケ}。り。故^{ユヘ}。其^ノ尾^ビと割^カ裂^キ。視^ミ。中^{ナカ}に。一^{ヒト}劔^キあり。素盞^{スサノ}鳴尊^{ノリノ}曰^{イハレ}。是^{コト}神^{カミ}劔^キ也^{ナリ}。吾^ガ何^ニ敢^カ。私^シ。以^テ安^{ヤス}乎^{ナリ}。乃^ハ。天^{アメ}。神^{カミ}。上^ノ。缺^{カケ}。此^{コノ}所^{トコロ}。謂^{イハレ}。草^{クサ}薙^{ナギ}劔^キ也^{ナリ}。本^ホ。右^{ミダリ}。天^{アメ}。襲^{ウラ}。雲^{クモ}。劔^キ。蓋^{カサ}。大^{オホ}蛇^{ヘビ}所^{トコロ}。居^イる。上^ノ。常^{トコロ}に雲^{クモ}氣^キ。り。故^{ユヘ}。名^ナ。飲^{ノム}。日^ヒ本^ホ。武^ム。皇^{ミコ}。子^コ。到^ツて。名^ナ。と改^カて。草^{クサ}薙^{ナギ}劔^キ。と。夫^{ソノ}。素盞^{スサノ}鳴尊^{ノリノ}大^{オホ}蛇^{ヘビ}と。平^{ヒラ}。

續前卷

三十一

時々中津國よ君とつひ。臣と云もも多。人間禽
獸草木同じく住ゆ。大蛇来て人氏吞らむ。平術
もろごと。毎年よ吞まらり。故よ素盞鳴尊。奇計と
廻して平らむ。後の世よ惡鬼平げ。惡徒と定
奇計と云はし。是り始り。大地平て後少も
國よ障礙ケレゆ。素盞鳴尊。姫氏迎ふ。多
婦と云。將婚レ處と不見。遂よ出雲レ國ノ清地と
云。取よつり。乃言して。曰。吾心清清之伎
處よ於て宮氏建る。且。其。相与に違合
し。兒大に貴神氏生。因勅曰。吾兒地宮ノ首と。

即脚摩乳手摩乳也。故よ号氏二神。下。稻田宮
主神と云。吾兒地宮との。後世よ禁
中方に兒地宮と云。是より起り。已あ。素
盞鳴尊。遂。伊弉諾。伊弉母の勅。根の國
へ就る。或云。時。武素盞鳴尊。歌して。日夜
句。茂多菟。伊都毛。夜霸。餓岐菟。磨語。味尔。夜
霸。餓岐菟。俱盧。贈迺。夜霸。餓岐。迴。素盞鳴尊
暴惡。懲て。善道。勸て。善神。成。此一首。此
歌。明。此歌の心。深遠。幽妙。此一首。此
讀。其。人。其。初遍。

青介問答二

一通ハ夜句茂多菟トハ八色ハ雲乃立トイハ伊都
毛らハ出雲ノ國ハ八色ハ雲乃ハありて國ハ
名ハ云々付そり。夜霸餓岐トハ八重ノ牆ト云
後。ききん。きこ。こ。通。ふ。し。云。通。句。下。界。ノ
言。則。今。ハ。家。ノ。事。ハ。菟。磨。語。昧。ル。ハ。妻。氏。ハ。こ。し。ハ
ト云々。此。上。句。ノ。心。ハ。八。雲。立。出。雲。ノ。國。ハ。八。重。ノ。家
牆。ト。け。く。分。ハ。稻。田。姫。ト。云。妻。氏。ハ。こ。し。ハ。人。を。め。ふ。ト。云
心。ハ。夜。霸。餓。岐。菟。俱。盧。贈。迺。夜。霸。餓。岐。迴。ト。是。ト
神。代。ノ。重。ね。詞。ト。云。丁。寧。ト。云。後。此。心。ハ。下。句。ノ。心。ト。
其。妻。氏。ハ。人。ト。云。其。八。重。ノ。牆。ト。八。重。ノ。總。構。ト。念。ハ

入て作と云れ。上句ノ終ハホノ字ト。下句ハ弦の
迴ノ字ト。深意備まり。六ノ陰。廻ハ陽々ハ外ト守て。
陰ト内ト治ノ心自あり。素盞鳴尊心正なり。人
多身修ゆへ。夫婦道ハ盡して家齊也。異朝の
文王天下ハ平ふ。時開雅ハ詩ト作。ト。夫婦ハ
道を褒そり。されハ君子之道。端ハ夫婦ト造。其
至。及。で。ハ。天。地。ハ。察。カ。リ。ト。心。子。思。ハ。説。キ。ト。然
心正而後身修。々々。而後家齊。々々。而後國治。々々。而後
天下平ノ道。此歌ハ含々。吾朝ト歌ハ。天下
ト治ト古々。是。此。謂。也。此。歌。ハ。四。妙。備。ま。り。字

歌入用

三

妙句妙意妙始終妙也。字妙とい。文字八教三十一字と
 云。一月と三十日終て。始か故に一字以入て。よむるあり。
 句妙とい。一首と五句と定む。以云。則五行は原はく也。
 意妙とい。一首の歌とて意無尽此理。以會を云。天地と
 動鬼神を感ず。しる事。始終妙とい。此歌の
 躰。素盞鳴。始て。後世人皇より今日。到ま。法則
 とい。故に紀貫之。古今の序。小も。久堅。天
 少て。下照姫。始て。荒金。地ありて。素盞
 鳴。尊より起。之り。此歌。初遍のり。
 申。三重三重深。意あり。此歌。讀。後

國王大平。素鵜乃内裏。貴神
 生。此神大器量。中津國。經營
 あり。然。天照太神。天上。中津國。素盞
 鳴。尊より事。始り。大己貴神。治。也
 問。大己貴神。葦原。中津國。如何。經營
 あり。や
 答。素盞鳴。尊。八岐。大蛇。平て。國土。災か
 とい。此時。荒草。味。世。君臣の
 禮。昆弟。倫。小。役。弱
 疆。役。村。邑。螢火。先神。命

八威光^{カレヨ}とて居^ル神もあり。又蠅聲^{ハエノコエ}邪神^{ヨクシ}とて
彼是徒黨^{カレヨトヨウ}以結^{ムス}て人^{ヒト}所害^シ以^テ邪神^{ヨクシ}もあり。復草^{ヒタクサ}
木^キ成^ル言語^ゴして^シ行^ク。是非^{レヒト}情^シの草木^{クサキ}言語^ゴ々^々。天^{アメ}以^テ常^ニ
と得^ルて^シ變化^ヘの氣^キ。今^{イマ}も深山^{シムヤマ}幽谷^{ユウコク}の妖怪^{ヨクサイ}の^ク。
故^ニ紀貫之^{キヅナヒ}之^ノ荒金^{アラカネ}八地^{ヤチ}とて^シ々^々。其^ノ言^{コト}時^{トキ}
大己貴神^{オホニギハヤヒノカミ}天性^{セイカウ}豪疆^{コウキヤウ}。才德^{サイトク}傑出^{ケツシュツ}大^{オホ}心^{ココロ}志^シ行^クとて。
国土^{クニツチ}平^{ヒラ}一統^{イツトウ}見^ルて^シ思^フ立^テ出^デ雲^{クモ}國^{クニ}五十^{イソ}狹^サ之^ノ
小洲^{コシマ}行^キ到^リて^シ當^マ飲^ム食^ム之^ノ時^{トキ}。海上^{ウミノウミ}忽^タ人^{ヒト}聲^{コエ}あり。
驚^{オドロク}て^シ求^ムる^ニ。見^ルゆ^ヘく^ニ。須^ス知^ルく^ニ。一箇^{ヒトツクリ}の小男^{コナヲ}あり。
白麩^{シロコ}皮^カ以^テ舟^{フネ}に^シけ^ル。鷓鴣^{ササギ}の羽^ハ以^テ衣^ユと^シ。隨^ツ

潮水^{シホ}に浮^ヒ到^リ。大己貴神^{オホニギハヤヒノカミ}取^リて^シ掌^テ中^{ナカ}小^コ置^キて^シ散^ルた^リ
す^レ。時^{トキ}則^チ跳^リて^シ其^ノ頰^ヲ以^テ齧^ム。其^ノ物^{モノ}色^{イロ}と怪^シて^シ使^シと^シ
遣^ハて^シ天神^{アメノカミ}に^シ白^{シロ}と^シ。于^レ時^{トキ}高皇^{タカミミ}皇^{ミコ}產^ム靈^ニ尊^ノ聞^クて^シ曰^ク。吾^ガ生^ム
魂^{タマシ}九^ク千^ニ五^{ヒト}百^ニ座^マあり。其^ノ中^{ナカ}に^シ一^{ヒト}兒^コ最^モ惡^シと^シて^シ教^ヘ養^フよ^シ
頃^ハに^シ指^{サシ}間^マより^シ漏^レ墮^ル者^{モノ}必^ズ彼^ノ人^{ヒト}宜^シ愛^スて^シ養^フ之^ノ也^{ナリ}
乃^チる^ニ。其^ノ地^チ即^チ少彥^{シコヒコ}名^ナ命^{ノミコト}也^{ナリ}。大己貴神^{オホニギハヤヒノカミ}其^ノ少彥^{シコヒコ}名^ナ命^{ノミコト}
と^シカ^ニ以^テ戮^ス心^{ココロ}と^シ一^{ヒト}以^テ天下^{テンカ}と^シ經^ル營^スと^シ。少彥^{シコヒコ}名^ナ命^{ノミコト}
命^{ノミコト}顯^ル見^ル。蒼^{アヲ}生^ム及^ビ畜^ム產^ム物^{モノ}を^シ。則^チ其^ノ病^{ヤミ}と^シ療^フ之^ノ方^{カタ}以^テ
定^ム。又^{マタ}鳥^{トリ}獸^ノ昆^{ムシ}虫^{ムシ}の災^{ハシ}異^ニ以^テ療^フ之^ノ法^{カタ}
と^シ定^ム。是^レ以^テ百^{ヒヤク}姓^{セイ}今^{イマ}に^シ到^リて^シ咸^ニ恩^ニ賴^ル。以^テ蒙^ル也^{ナリ}。是^レ吾^ガ

朝の醫師禁厭者の初也。大己貴命少彦名命少
日吾等所造八国豈能成也。或ハ成ガ所モアリ。其後少
命對曰或成所モアリ。或ハ成ガ所モアリ。其後少
彦名命行テ熊野ノ御碕ニイリ。遂ニ常世ノ
郷ニ適ス。是吾朝仙人ノ始也。是レハ後國中
ニ未成ガ所所成之。大己貴神独巡リ造遂ニカ
國ニ到リ興言曰。葦原中国ハ本レ荒芸磐石草
木ニ到リ。咸ク強暴然吾己ニ摧伏和順ス。子
孫カ。遂ニ因テ言。今此國ニ理ハ唯吾一身ノ
共吾レ共ニ天下ニ理メ蓋アリ。人々ノ多ク。

然レ葦原中津國一統ニシテ。久小強弱も以廣
弟ト以テ。きり志ス。神ニ是レ此國ノ始祖ニ故ニ
大ニ國代作テ。己獨貴トシ。心トシ。國作大己貴命
ト號ス。何レ氣質豪強少ク人望テ醜ク。その
しき男カ。少レ。葦原醜男モ名。武勇人ノ勝。
廣弟ト以テ。八方代斬從。故ニ八千戈神ト名。
荒金妙国土代々。和。多。少。大國玉神ト名。
其德天下ニ以テ。顯。國玉ノ神ト
モ名。万物代々。静。多。少。大物主ノ神ト名。
名。大ニ天下ニ至リ。成。多。少。大國主ノ神ト名。

多てりし其子九一十八神ゆへに繁昌
神也則三輪明神山王權現是也

問曰大己貴神葦原中国一統して君と成る
よ如何として天照大神瓊々杵尊と降臨せしめ

中国の帝王うへにふらふや
答曰大己貴神々素盞鳴尊善神とありふらふ

稻田姫を娶い出生し御子なりとも性質豪強
武威人勝廣牙とみく天下に一統しるも天照太

神天上よりゆりて下土に照臨たまひ大己貴廣
牙は道と荒金の土より一往一統すは権柄

日服して心服せられむ万々歳依遠長久妙道
ありと故大己貴神は御使汝立其理汝示瓊

々杵尊汝降臨せしめ大己貴神は代うあり
此天津彦火瓊々杵尊と申天照大神は御子正

哉吾勝勝速日天懸穗耳尊は子母々栲幡千
千姫と申高皇彦尊は御女也瓊々杵尊理氣

質全備て唯一性質かたして天照大神高皇
彦靈尊持て愛憐しるも崇養しるも御名天津

々天理全得るも賞養の称彦と男子の通
称女子瓊姫と云と同一火とん則日也其理妙明

新編神代卷三

三十四

る。と日。昨日。は。是。鏡也。瓊。則。玉也。其。氣。ハ。和。カ。向。リ。玉。ハ。温。潤。カ。向。リ。是。聖也。杵。ハ。則。劔也。其。質。ハ。正。シ。て。果。敢。次。断。劔。ハ。是。實。劔。也。此。三。ノ。德。自。シ。生。ジ。コ。ホ。ム。ヨ。リ。御。名。ハ。是。故。天。照。皇。太。神。八。坂。瓊。ノ。曲。玉。八。咫。鏡。草。薙。劔。ノ。三。種。ハ。神。器。ハ。五。種。ノ。三。種。ノ。三。德。ハ。一。ノ。全。体。ハ。一。ノ。全。体。ハ。天。下。と。治。礼。ハ。万。機。ヲ。修。万。機。ヲ。統。ス。一。本。ハ。帰。シ。て。天。下。静。謐。カ。ル。ハ。王。道。ト。云。ハ。異。朝。ハ。道。之。政。ト。云。ハ。齊。之。刑。ト。云。ハ。民。免。シ。て。耻。カ。シ。道。之。德。ト。云。ハ。齊。之。禮。ト。云。ハ。耻。カ。シ。且。格。ト。孔。子

の。政。刑。ハ。変。ビ。正。ノ。道。徳。禮。常。以。治。レ。道。故。政。刑。を。覇。道。徳。禮。を。王。道。と。孟。子。ハ。名。ス。リ。大。己。貴。ハ。神。ハ。荒。金。ノ。地。ヲ。付。ケ。レ。覇。道。ノ。武。權。を。以。て。変。ト。正。威。ハ。伏。ス。シ。ラ。特。ハ。叶。魚。リ。既。ハ。一。統。ノ。後。々。時。小。叶。ス。瓊。々。杵。尊。ハ。三。種。ノ。神。徳。自。備。ツ。也。王。道。ハ。長。久。を。以。て。常。以。治。心。服。ス。ル。也。高。皇。産。灵。尊。ハ。勅。ス。高。皇。産。灵。尊。ハ。十。諸。神。等。以。召。テ。問。目。中。国。ハ。大。己。貴。神。治。シ。タ。多。ハ。螢。火。光。神。及。蠅。聲。邪。神。後。草。木。咸。能。言。語。ハ。吾。葦。原。中。国。ノ。邪。鬼。ハ。捨。テ。去。ル

久人コトと云ふ。誰タレと遣ツカて宜哉ヨシカシヤと問トふ人ハ諸神モロミタカミ余曰コト天穗日命アマホヒノミコト是神カミノ僕也ツカサド。試シふコト命ノミコト人ノヒトヤと答コタヘ是コト於オて弟一ニノイヒ天穗日命アマホヒノミコト以遣ツカ然シカレニ世神ヨミカミ大己貴オホニギハヤヒ神ノカミ倭ヤマト媚メて三年ミトシナリ報命カヘリ中ノミコト人ノヒト故ユ其子コノミコト大背オホセ飯イヒ三熊ミクマ之大人ノオホタチと遣ツカ此亦還カヘて其父コノチチト從シ遂ニ報聞カヘリ中ノミコト人ノヒト是弟二ニノイヒ使也ツカサド。故ユ高皇產灵尊タカヒメノミコト更諸神モロミタカミと會アヒて遣ツカ命ノミコト曰コト天國玉アマノクニノタマ子天稚彦アマノワカヒコ是壯士也オホタチノヒトナリ宜試ヨシシ命ノミコト人ノヒト是コト於オて高皇產靈尊タカヒメノミコト天稚彦アマノワカヒコ天鹿兒アマノカ弓コ及天羽々アマノハハ矢ヤ以賜タマヒて遣ツカ此神ノカミ忠チカ誠マコト也ナリ來到キタリて即顯國王スナキノ女子メスメ下照姬シタテヒメと娶メトリて

留任ルイニ曰コト吾亦葦原中國アシハラノクニと馭ツカと欲ホシて遂後命スエノミコト中ノミコト人ノヒト是弟三ニノイヒ使也ツカサド。是時コトノトキ高皇產灵尊タカヒメノミコト其久未報コトノマダカヘラズ命ノミコト人ノヒト乃無名ナナメ稚コと遣ツカて伺ウカガ之コト其コト稚コ飛降トビク天稚彦アマノワカヒコ乃所植湯津ノカミ杜木ツツキ抄ス止時トドマシ天探女アマノササメ見ミて天稚彦アマノワカヒコ謂イハ曰コト奇鳥オキトリ來キて杜木ツツキ抄ス居ス。天稚彦アマノワカヒコ乃高皇產灵尊タカヒメノミコト所賜タマヒ天ノ鹿兒カ弓コ。天ノ羽々ハハ矢ヤを取トルて稚コ射イて斃コロス其コト矢ヤ稚コの胸ムネ以テ洞達トホリて高皇產灵尊タカヒメノミコト乃座イハ於オ前ノマヘ。時トキ高皇產灵尊タカヒメノミコト其矢コノヤ以見ミ曰コト是矢コノヤ則昔我天稚彦オノコトノマダカヘラズ賜タマヒて矢ヤ血チ其コト矢ヤ以誅コロス命ノミコト人ノヒト蓋ケレ國神クニノカミ相殺アヒて

然欲雲。於て矢以取て還す。授下り。其夫落下
則天稚彦の胸上の中時。天稚彦新嘗休卧
時也。夫の中て立こり。死此世。人所謂及矢畏
水申以縁也。是弟四使也。是後高皇產灵
尊更に諸神を會て當に葦原中國に遣者
以選め。余曰。磐筒男磐筒女所生の子經津
主神。是將に佳や。時に磯速目神の子武甕槌
神進目。豈經津主神の獨丈夫あり。昔ハ丈
夫よりず。其辭氣慷慨。故に經津主神に配て
葦原中國に平し。是弟五使也。經津主神々。

則攝取の明神。武甕槌神。鹿嶋明神也。是
後世に副將軍と云す。わりの軍術者。經津
主神と祖神とす。りも是より起り。此神
出雲國五十田狹の小汀に降到て。則に握の劍を
抜倒し。地に植其鋒端。路あり。大己貴神に問
曰。高皇產灵尊。皇孫以降し。はりて。此國の君
と見し。欲て。故に先我二神以遣て。馳除平定し。し
汝の意如何當に避す。んや。否。時に大己貴神對田
當に我子に問て。然後に報申ん。是時其子事代
神出。出雲の三穗の碕に釣。莫以以て樂ん。故に熊野

諸手船^{モト}汎^シ以^テ之^ヲ使者^{ツカヒ}稻背^{イナセ}脛^シと載^セて遣^ハし高皇產^{タカニギハヤヒ}
 灵^{ミコト}代^ニ主^ノ神^{カミ}使者^{ツカヒ}之^ヲ謂^フ曰^ク今^ニ天神^{ツクシ}此^レ借^ヒ問^ヒ之^ヲ勅^ス
 事^ニ代^ニ主^ノ神^{カミ}使者^{ツカヒ}之^ヲ謂^フ曰^ク今^ニ天神^{ツクシ}此^レ借^ヒ問^ヒ之^ヲ勅^ス
 我^ガ又^モ宜^ク當^ル避^ケ奉^ル命^ヲ吾^レ亦^モ違^ハず^シ使者^{ツカヒ}既^ニ
 還^リて報^ヘ命^ヲ而^{シテ}故^レ大^ニ已^ニ貴^クノ神^{カミ}則^チ其^ノ子^ヲ以^テ辭^ス
 以^テ二^ノ神^{カミ}自^ラ曰^ク我^レ古^ク子^ヲ多^ク也^ニ既^ニ避^ケ去^リ之^ヲ
 乃^チ改^メ之^ヲ吾^レ亦^モ當^ルに避^ケま^ス之^ヲ如^シ吾^レ防^グ禦^ス也^ニ
 国^ノ内^ニ諸^ノ神^{カミ}必^ズ當^ルに同^ニ禦^ス之^ヲ今^ニ我^レ避^ケま^ス之^ヲ誰^レ後^ニ
 敢^テて煩^ガふ^{コト}也^ニあ^らん^やと^シ乃^チ国^ノ平^クし^テ時^ヲ所^ニ
 杖^ヲ廣^ク矛^ヲと^シ以^テ二^ノ神^{カミ}を授^ケゆ^ル事^ヲ曰^ク吾^レ世^ニ矛^ヲ以^テ

以^テ乎^レ以^テ切^ク之^ヲ也^ニ乃^チ幸^ニあ^らん^や天^ノ孫^ヲも^シ世^ニ矛^ヲと^シ以^テ之^ヲ國^ノ
 と^シ流^ルる^{コト}必^ズ當^ルに平^ク安^クし^テ乃^チ今^ニ我^レ百^ノ不^レ足^ス八^ノ
 十^ノ限^ヲ隱^シし^テ以^テ詭^ニて^シ遂^ニ隱^ス也^ニ是^レ乃^チ於^テ二^ノ神^{カミ}諸^ノの
 順^ニ之^ヲ鬼^ノ神^{カミ}も^シ乃^チ以^テ謀^ルて^シ果^シて^シ復^シ命^ヲ中^ニ以^テ時^ヲ
 高^ノ皇^ノ產^ニ灵^ヲ尊^ニ真^ニ床^ニ追^ヒ衾^ヲ以^テ皇^ノ孫^ヲ天^ノ津^ノ彦^ヲ火^ヲ瓊^ヲ
 々^ニ杵^ヲ尊^ニ以^テ覆^フて^シ天^ノ降^ル由^ヲ之^ヲ以^テ皇^ノ孫^ヲ乃^チ天^ノ以^テ磐^ヲ石^ヲ座^ニ
 以^テ離^レ且^チ天^ノノ^ハ八^ノ重^ノ雲^ヲ以^テ排^ク分^クて^シ稜^ニ威^ヲ以^テ道^ヲ別^クし^テ道^ヲ
 別^クて^シ日^ヲ向^テ龍^ノ衣^ヲ之^ヲ高^ノ千^ノ穗^ノの^ノ峯^ニ天^ノ降^ル由^ヲ之^ヲ以^テ吾^レ田^ヲ
 長^ノ屋^ヲ以^テ笠^ヲ狭^クの^ノ碕^ニ到^リて^シ其^ノ國^ノ一^人あ^らん^や自^ラ事^ヲ
 勝^ル國^ノ勝^ル長^ノ狭^ク號^ス皇^ノ孫^ヲ問^ヒ曰^ク國^ノ在^リ耶^ヤ否^ヤ對^シ曰^ク此^レ

皇孫問答二

三下院

國あり。請^{コト}任意^{コト}遊^ユ之^ヲ。故^ユ皇孫^{ミコ}就^ツて留^ト在^ル也。事^{コト}勝^カ國^{クニ}勝^カ長^{チカ}挾^カく。日向^{ミナソト}國^{クニ}の國^{クニ}造^{ツク}り。故^ユ從^ヒ多^クて。下^ノつるを留^トめ。則^チ吾^ガ田^タ長^{チカ}屋^ヤの御^{ミコ}殿^ノに立^タり。是^レ中^{ナカ}津^ツ國^{クニ}内^ノ裏^{ウラ}に始^メ也。神^{カミ}武^{タケ}天^{アメ}皇^ノの時^{トキ}。大^{オホ}和^ニ國^{クニ}に遷^{ウツ}り。時^{トキ}は彼^{ソノ}國^{クニ}に養^{マシ}人^{ヒト}あり。名^ナは鹿^カ葦^{アシ}津^ツ姫^{ヒメ}。亦^モ名^ナは木^キ花^{ハナ}之^ノ開^{ヒラ}耶^ヤ姫^{ヒメ}。之^レに代^カり。幸^シて疾^ヒ火^ヒ出^デ見^ミ尊^ノ生^ムる。天下^{ツク}に代^カり治^スる。多^クく三^ミ十^{ジュウ}一^{イチ}万^{マン}歳^{サイ}也。是^レ天^{アメ}孫^ノ降^カ臨^シの天^{アメ}畧^{リョク}也。疾^ヒ火^ヒ出^デ見^ミ尊^ノ生^ムる。海^{ウミ}神^ノの女^メ豐^{トヨ}玉^{タマ}姫^{ヒメ}に娶^{ムス}て。疾^ヒ火^ヒ出^デ見^ミ尊^ノ生^ムる。天下^{ツク}に代^カり治^スる。多^クく六^{ロク}十^{ジュウ}三^{サン}万^{マン}七^{シチ}千^{セン}八^{ハチ}百^{ヒャク}九^ク十^{ジュウ}二^ニ歳^{サイ}也。鷓^シ鴒^{リョウ}草^{クサ}膏^{コウ}不^フ合^{カフ}尊^ノ生^ムる。天下^{ツク}に代^カり治^スる。多^クく六^{ロク}十^{ジュウ}三^{サン}万^{マン}七^{シチ}千^{セン}八^{ハチ}百^{ヒャク}九^ク十^{ジュウ}二^ニ歳^{サイ}也。鷓^シ鴒^{リョウ}草^{クサ}膏^{コウ}不^フ合^{カフ}尊^ノ生^ムる。

豐^{トヨ}玉^{タマ}姫^{ヒメ}乃^ハ姨^{イハ}玉^{タマ}依^ヨ姫^{ヒメ}に娶^{ムス}る。神^{カミ}日^ヒ本^{ホノ}磐^{イハ}余^ヨ彦^{ヒコ}尊^ノと生^ムる。天下^{ツク}に代^カり治^スる。多^クく八^{ハチ}十^{ジュウ}三^{サン}万^{マン}六^{ロク}千^{セン}四^シ十^{ジュウ}二^ニ歳^{サイ}也。以上^{イサナ}是^レ代^カり地^チ神^ノ五^イ代^ノと云^フ也。

貴介問答卷之二終

貴州圖志卷之二

見之木公也
可心得者此書也

建氏山房

